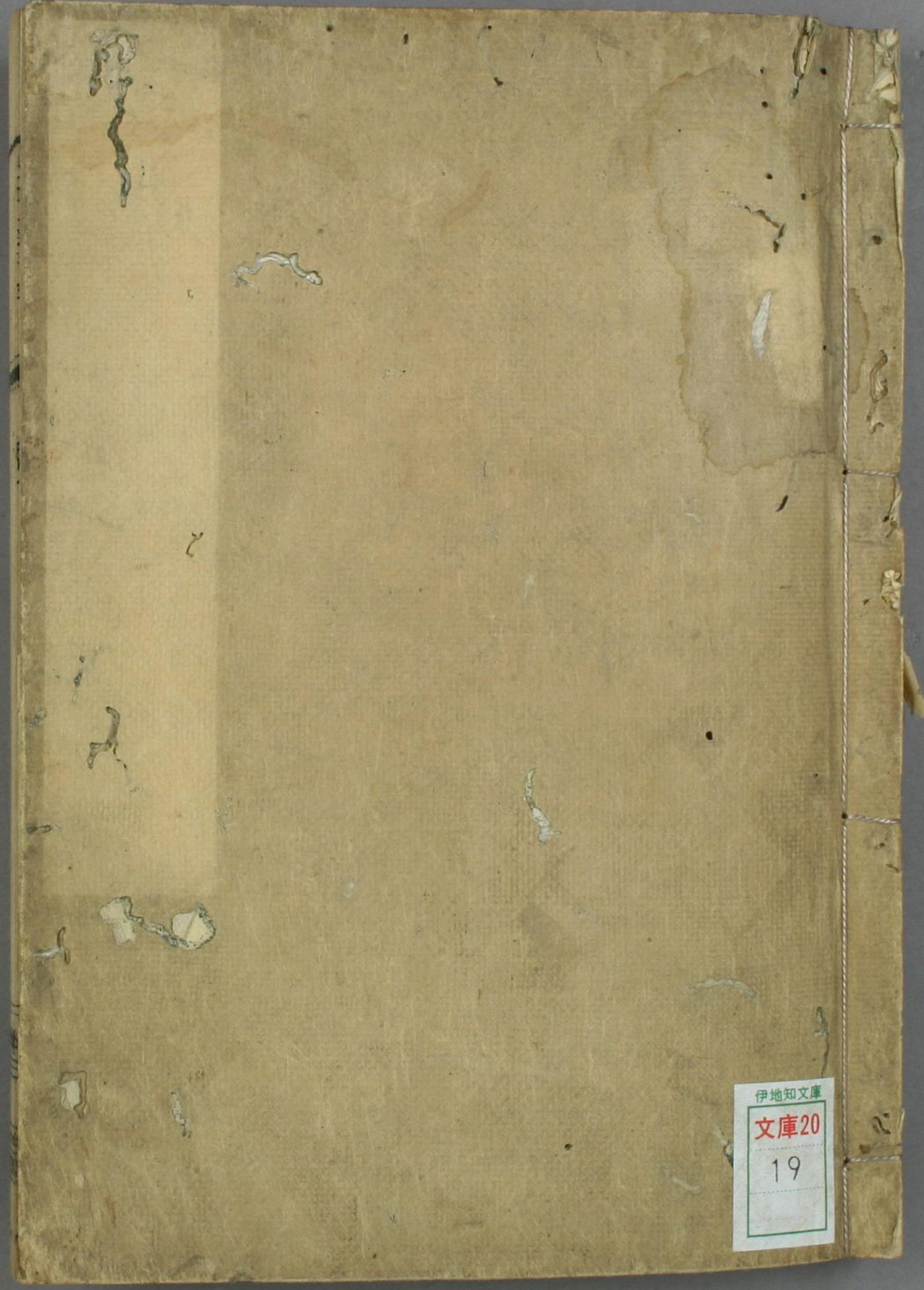
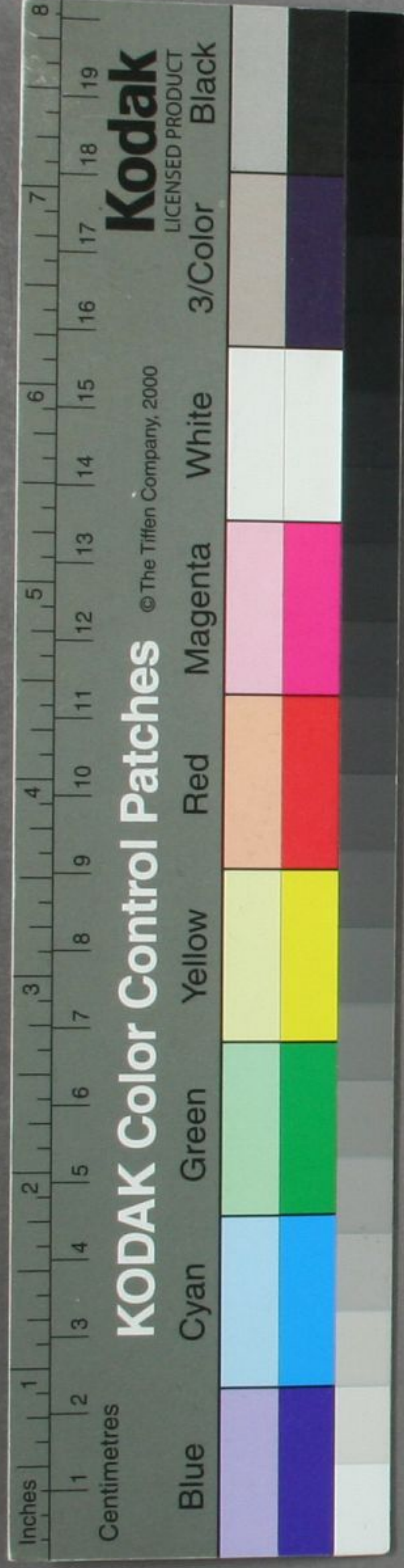




伊地知文庫
文庫20
19



宝徳四年三月十日

奉教 弘長寺 住持 宗砌

文安二年八月十日

奉教 月河の側 宗砌



宝徳四年二月十二日

伊地知氏書冊

才一

何人

字物

花をうけ流るる侍 々新のやと
句いあるき梅のり松 家松
神々花野之の殿上国年 威威
あきう月旅の衣をせ世世
関のううう一年の朝の人ち
るふあふ山中の水日
花をきやうのあはらうや 京春

宝徳四年

二月

十二日

とのしつぬや寒よ鴨多 超心
 胡床もさそはく夜のおね 龍也
 むの里はく木風 与阿
 う多や花の月をゆらん 梁心
 床のちいばやけはね人 金河
 ありき山の下まゐりて 利仕
 はくくやよきくのは 貞明
 遠くふりてさめ伯如 吉理
 いふ風をほふあく 威
 枝のちのれねふしき 砌

じつらんむいよしのえい 忠
 りふきけくそほの光る 順
 ちみあつて代いのちき 松
 月を午のぼすのまね 柳
 小きやうく園の夕暮 茂
 けしき里のうしろの山あり 歳
 舟のしつぬやけは磨の浦流 英阿
 ほけの朝のしつぬをきく 忠
 むけくくねふしき 松
 七宵ふくののほろろし 然

ゐあゝ水のうゝいゝゝゝ
 山平と河内さるゝゝゝ
 りまゝゝゝゝのちゝゝ
 里ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 まゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ
 つゝ年ゝゝゝゝゝゝゝ
 原ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 どのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 けりゝ世ゝゝゝゝゝゝゝ
 順 威 忠 梁 文 桐 松 順 超 研

森ゝのゝゝゝゝの面白ゝゝ
 秋草ゝのゝゝゝゝゝゝゝ
 いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 順 威 忠 梁 文 桐 松 順 超 研

宗研 八 日晟 十 梁心 六
 宗仁 七 原春 六 利仁 二
 賢盛 九 超心 六 貞明 二
 忠盛 十 龍忠 五 吉理 一
 専順 九 與阿 五 英阿 三
 金阿 三

同十二日

才二

何路

松

花の山を渡る子鹿
 野を渡る一年を渡る
 花の山を渡る子鹿
 月を渡る子鹿
 秋の風を渡る子鹿
 花の山を渡る子鹿
 月を渡る子鹿
 秋の風を渡る子鹿

松

山を渡る子鹿
 花の山を渡る子鹿
 月を渡る子鹿
 秋の風を渡る子鹿
 花の山を渡る子鹿
 月を渡る子鹿
 秋の風を渡る子鹿
 花の山を渡る子鹿
 月を渡る子鹿
 秋の風を渡る子鹿

松

其のくろん雅之國
 氏の人苗代山田氏に
 高き山を越えしに
 芦の生ふ所より留て
 こゝに居るは波の音に
 月々の光の如きの如
 きものなりしものな
 本の人のあまはさか
 り草とせよとせよ
 昔のいほひの如きは
 松

にく火んくくくくの黒
 光る仲赤人の血くくく
 冠くくくの女のくくく
 時くくを神くくくくく
 くくくくくくくくく
 款くくくくくくくく
 月くくくくくくくく
 暗くくくの反をくくく
 波くくくくくくくく
 子くくくくくくくく
 最

この川にふみたる
人のさしむるまゆと
西のむら村のすつ風
神のまじりのまじり月を
あつた井はまのまじり
松のまじり
浦のまじり大定の波
しや波袖のまじり
るまじり
るまじり車はまやま
出 順 京 威 威 出 出 出

この川にふみたる
人のさしむるまゆと
西のむら村のすつ風
神のまじりのまじり月を
あつた井はまのまじり
松のまじり
浦のまじり大定の波
しや波袖のまじり
るまじり
るまじり車はまやま
出 順 京 威 威 出 出 出

〰〰〰〰〰 世にほゝろ
 里河、公のふくやる一哥
 種〰〰〰〰〰 人のおろ
 名もふの^花の村まゐる
 まのふろのむさつゝあ
 う〰〰〰〰〰 山にやまのん
 中〰〰〰〰〰 むかひの
 向ふこのれのはれね
 〰〰〰〰〰 夕ぐれのを
 力をくは人のふのふし
 原 松 城 梁 超 西 原 仙

月〰〰〰 昔の油と
 秋を〰〰〰 文のや
 〰〰〰〰〰 〰〰〰〰〰
 吉 西 超

賢盛 十 京春 八 英阿 一
 超心 七 西登 高 貞明 一
 龍忠 八 〰〰 九 金阿 一
 日成 七 〰〰 五 吉理 一
 宗松 六 〰〰 四
 字御 十五 利在 三

中

何鳥

原

了切

冠つてゐる祝子
破衣あつたの香う
いゝやうな花の香
んせし梅の香の嵐
漆の上はくし山里
薪つておこしたる
仕へる人に入ら
代さうのいゝなる
後うるのくさくさ
まゐるまゐるやう
松 吉 順 晟 越 盛 砌 秋

あつてゐる祝子
破衣あつたの香う
いゝやうな花の香
んせし梅の香の嵐
漆の上はくし山里
薪つておこしたる
仕へる人に入ら
代さうのいゝなる
後うるのくさくさ
まゐるまゐるやう
松 吉 順 晟 越 盛 砌 秋

わくわくしたくまのくまのくま
種あつた水のくまのくま
くまのくまのくまのくま
くまのくまのくまのくま

原春七 龍巻八 宗松 五

賢盛七 西折七 吉理 二

超心六 宗松七 利社 一

英阿二 三 八

子阿三 四 八

金阿七 梁心 五

中五

唐何

順

さびしやうのくまの山松
柳のくまのくまのくま
小田のくまのくまのくま
戸あく 蛙のくまのくま
くまのくまのくまのくま
このくまのくまのくま
よまのくまのくまのくま
系以 柳のくまのくま

幸勝ふしうもや河あふん
 稍さうさう筆のあふん
 色さひうのいぬ入口の音
 浦さうさうのあふん
 三思ふと流さふゆふん
 毎の凡さうさうさう
 單さう衣の帯のさう
 琴さうさうさうさう
 底さうのさうの長さぬ
 有ぬさうさうさうさう

京 在 超 吉 然 超 然 龍

幸勝ふしうもや河あふん
 稍さうさう筆のあふん
 色さひうのいぬ入口の音
 浦さうさうのあふん
 三思ふと流さふゆふん
 毎の凡さうさうさう
 單さう衣の帯のさう
 琴さうさうさうさう
 底さうのさうの長さぬ
 有ぬさうさうさうさう

京 在 超 吉 然 超 然 龍

このせいで田舎はるにるが
柳にささる人新
や音鞠の軒の夕月風ふれ
あふすさる人新
川ささる人新
ささる人新
牛のはるの折さあひよ
雀むさる人新
けささる人新
けささる人新

かき紙 年とあふも顧く
ほむと後ささる人新
ささる人新
あささる人新
ささる人新
すささる人新
ささる人新
ささる人新
ささる人新
ささる人新
ささる人新
ささる人新
ささる人新
ささる人新
ささる人新

成安
馬山律をう
とかけて島
津馬鶴
のまきし

吉龍順忠國京順初晟和

梁 桐

三

カ六

朝何

超

花のえんやうのまじ	うらつゝ二月のせ	いふやも水ひら	さすもつる谷のうら	神もはくじふたふ	わくけくぬの急雨	里ハケれぬ梢の	さき月も
お	せ	ら	ら	は	ふ	く	お
威	威	然	梁	歳	眼	新	何

花のえんやうのまじ	うらつゝ二月のせ	いふやも水ひら	さすもつる谷のうら	神もはくじふたふ	わくけくぬの急雨	里ハケれぬ梢の	さき月も
お	せ	ら	ら	は	ふ	く	お
威	威	然	梁	歳	眼	新	何

睦言よすしあやせうん
いりういしほのされこ
法元よあつれいあき
りうのはあは秋を侍り
凡通ふあやれうん
御あはれこき 極のー
片岡の夕日うけ 贈る
ういむしあひ山あきあ
控しうかあのうま事
本のえあはれうの泣
松 忌 忠 原 在 起 忌 松 令

こあやのうなほのうて
あきあきき 軒のうあき
あきーあひや成のん
あひし柳のうのう波
度ひのうのううあ
いりういしほのうあ
あきあきき 極のー
片岡の夕日うけ 贈る
ういむしあひ山あきあ
控しうかあのうま事
本のえあはれうの泣
松 忌 忠 原 在 起 忌 松 令

小好のくしえり
きくも横川の杉々るるよ
何 哉

超	ハ	家	七	梁	一
賢	十一	子	三		
世	十二	金	七		
日	九	糸	六		
吉	九	理	二		
龍	六	英	三		
字	十五	利	二		

カセ

何木

金

くさくさ目の子さるる
月と雲の
秋の
何と
らう
超
明
梁
金

日もきく夕も暮るや
列く遠る山と世の末
以てやむのまゝとるらん
二月やむの月いふの
梅のちあつたに
灯さるるのさるる
尋いらくさるる
はるるやうなる
ふあゝいふなる

畠 原 在 國 新 也 柳 梁

もはるる代の報
思ひあつたに
曲る人俳の子に
白き蓮のつるる
岸にほのつるる
水にほのつるる
君のほのつるる
うはるるの命
袖にほのつるる
うはるるの命

畠 原 在 國 新 也 柳 梁

後何の田子いもふいふた
むむむむこの時の木
其^{カミ}の魚のあゝのさ
むむむむ一鴨山の月
折るの月さそそそそ
むむむむむむむむ
蛙あぐたのゆくゆく
日ささささ五月雨のは
むむむむの袖とくやん
かゝけむるむむむむ
國松在原と蔵
松

魂のむむむむむむ
むむむむむむむむ
松見や風さる月とさ
むむむむのむむむむ
くくくくくくくく
むむむむむむむむ
日のあさむむむむ
越さささの岡の旗人
誰んむむむむむむ
まむむ入のむむむ山
松

山崎村をくまふりくたへ
ひさのちのちの初めのは
漁りくさくさく名波の浦
月新かき強はつ
ねろくねろくねろく
つひくもひくもひくも
くくくくくくくく
部 原 河 威 新 丑 珣 晟 梁 就

僅かなあひのふあひの
やせあひのふあひの
星くまの浦くまの浦
めくめくめくめく
夕立のひのひのひの
はくはくはくはく
おくおくおくおく
のくのくのくのく
ゆくゆくゆくゆく
珣くくくくくく
部 原 河 威 新 丑 珣 晟 梁 就

新唐のやうのひせがう	民
こころのうけい伊勢よりくる	民
後援けし柳と枝むく	盛
んゝぬさす花のありき	也
鳥しづのうらなふ	松
タのまのうまき	梁
世にくつさふ	石
いそいそつる山	梁
山敵やまらうて月	強
るゝゝあゝえん	と

中のはのうのまのうら
 このはのうのまのうら
 順

金阿	六	字松	六	英阿	一
梁心	五	日成	八	吉成	一
貞明	一	系春	五		
越心	六	中成	九		
出所	土	利花	四		
賢成	十	龍成	七		
字高	五	与成	四		

八

山何

龍

花よふじい花のきふれやまの風
 うすくの袖のきふれはらうそ
 のきふのきふれはらうそ
 花よふじい花のきふれやまの風
 うすくの袖のきふれはらうそ
 のきふのきふれはらうそ

嵯峨のやまの杉は風を
 末節のしほ通ふ風を
 十市もよめる中なるん
 ちり上のはのうは
 人々世継の韻を
 いりもさるの心入の事
 残りりる南の松を
 しる夜をよる日経の山
 春の日はえよる月を
 花のよる月を

伏屋守は此の夜なり日
こほす風のやうな
五月雨・跡のやうな
早苗・ついでに
徳のしるし・あつた
はち・年・あつた
こつこのおぼろの
枯葉・風のはらふ
有る・あつた
きけし・あつた

原 超 歳 明 如 也 杉 歳 明 也

山・の里・あつた
そと・色・あつた
家の大人・あつた
こつこのおぼろの
むの・あつた
さつ・あつた
離・あつた
さつ・あつた
旅・あつた
さつ・あつた

梁 金 如 如 超 英 也 明 如 也

と 菊の夕はむやに
く けりてあけ 甲の枝風
さ のはいさも 海りの影さく
池のつれも 涙のさあさ
明けつるさきうさきものよに
山 連なりてさき谷の戸
まはらふ本をれさき 雲あれ
柳さきさきさき 柳
河風さきさきの波 雲さき
又さきさき 舟のくさき
思 尔 哉 然 如 悲 在 食 和 順

室君のさきさき 雲のさき
さきさきさき 雲のさき
この田井のさきさき 雨は
さきさきさき 秋のさき
里のさきさき 雲のさき
さきさきさき 雲のさき
清水のさきさき 雲のさき
さきさきさき 雲のさき
さきさきさき 雲のさき
さきさきさき 雲のさき
思 尔 哉 然 如 悲 在 食 和 順

ふのひはきく昔人
凡しつね時々あるに

龍忠六 専順 十 子阿一

京春六 忠孝 十四

利仕三 梁八 六

宗松九 英何 三

字柳五 全河 七

起八 吉理 一

日晟九 貞明 二

第九

何衣

晟

龍忠六の専順十子阿一
京春六の忠孝十四
利仕三の梁八六
宗松九の英何三
字柳五の全河七
起八の吉理一
日晟九の貞明二
龍忠六の専順十子阿一
京春六の忠孝十四
利仕三の梁八六
宗松九の英何三
字柳五の全河七
起八の吉理一
日晟九の貞明二

高き所の所の月しのころ
福つちの女に
悪くするのや綿の衣長
袖に
程くさくさ山崎の夕時
つる日への
龍の門の柳の木の
つるや花のまね棚
衣はまの
月と波の
系 砌 叩 燕 梁 燕 英 叩 系

親書やとあひま
くさくさ白菊
るくさくさ
涙の
灯の
知とや
後の
思ふ
賢い色
くさくさ
系 全 子 燕 燕 叩 超 砌 全 系

二字及音

也

花影 月・匂いのこぼれ

のちのちの梅のうけ

山崎のうきまゐり

筆のうきまゐり

雨のうきまゐり

旅のうきまゐり

ちのちのちのち

海の方のうきまゐり

花のうきまゐり

袖のうきまゐり

やうのうきまゐり

まのうきまゐり

すのうきまゐり

世のうきまゐり

世のうきまゐり

世のうきまゐり

世のうきまゐり

世のうきまゐり

世のうきまゐり

世のうきまゐり

世のうきまゐり

世のうきまゐり

煙草の煙のやはらけ
草のうけのさき
更のし月の光のけ
野の草のさき
山の旁のさき
都のさき
浪磨の里のさき
三年のさき
明のさき
ササのさき

明
と
京
畑
也
越
英
金
成
仁

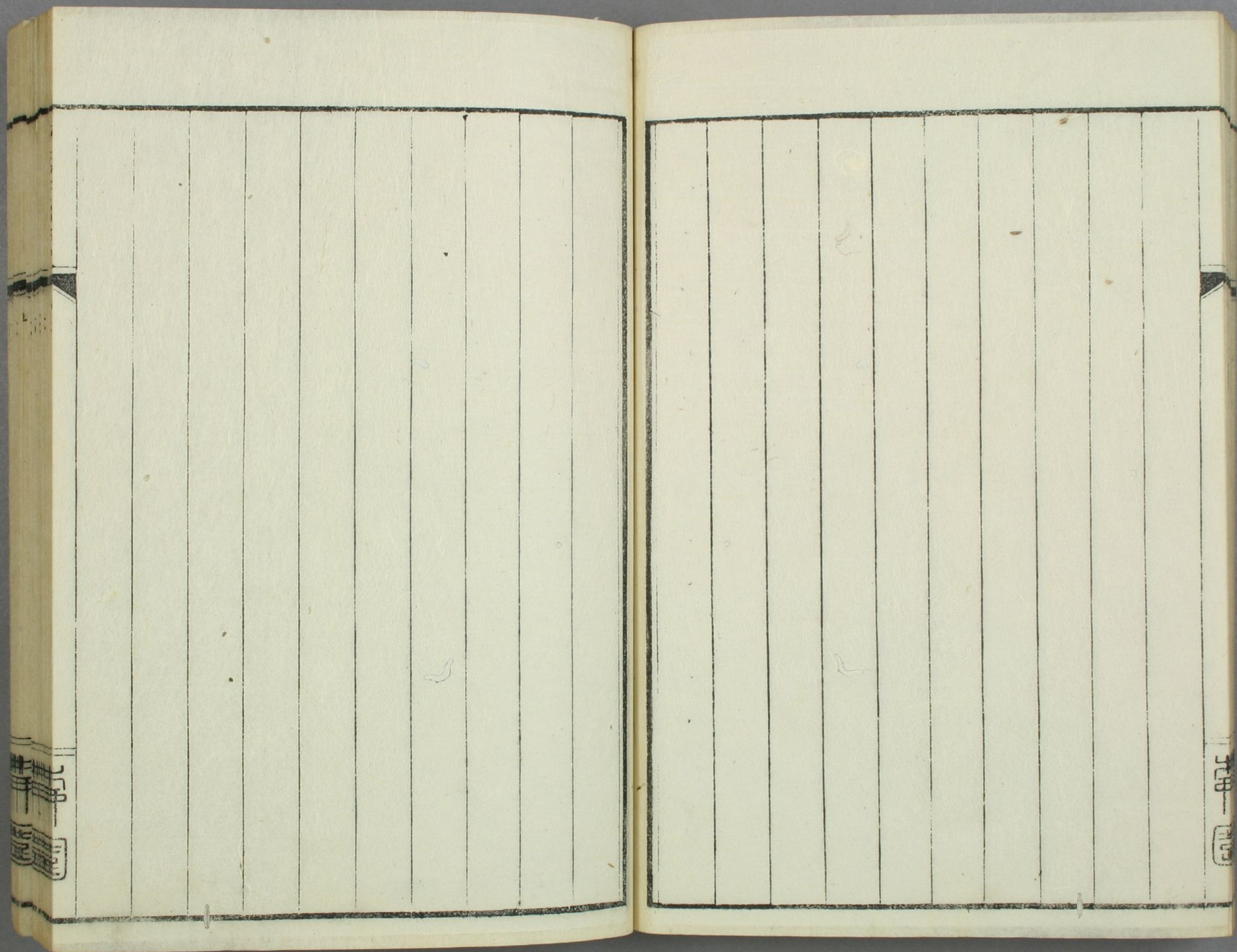
ぬるさのさき
うのさき
いさひの月
雲のさき
秋のさき
春の川
折のさき
さきのさき
三のさき
さきのさき

畑
也
吉
松
と
越
也
畑
成
畑

と
誰も皆 祝ふ 睦月の とき ありて
いふ 友をの とき ありん
ね といふ の とき ありん
月 ありぬ 日の 用 ありん
古 寺に ありぬ 水の ありん
出

以下 願ひ 可謂 遠恨

石室懷子句書寫平儀記於
石能校合



文安二年八月十五日

第一

夕何

宗師

月夜の如く時を今夜に

堀家

あきしむ枝はうけあひ

日哉

うや梢をさへ初は

生阿

うけしむ山をの如く

う順

空をぬるのきくほろ

玄清

強日の如くさへまのこ

玄幸

八十二

七

ねくつる沖けらるゝ 盛家
 よもやけける夕に地を 自薦
 月をふのりてさぬ桜葉 在阿
 雪のふりて雪の残波もや 軒
 月をふりて月をけり 良珍
 雪のふりて雪の残波もや 歳
 雪のふりて雪の残波もや 妻
 雪のふりて雪の残波もや 順
 雪のふりて雪の残波もや 萬
 雪のふりて雪の残波もや 信

頃、くさくさ、園のくさくさ、
 をの目うらみ、紫うらみ、おの、
 時、あ、くさくさ、くさくさ、
 ころ、あ、くさくさ、くさくさ、
 め、あ、くさくさ、くさくさ、
 幸、くさくさ、くさくさ、
 えて、くさくさ、くさくさ、
 高、くさくさ、くさくさ、
 君、くさくさ、くさくさ、
 所、くさくさ、くさくさ、

軒 殿 威 河 幸 卿 聖 高 君 所

頃、くさくさ、くさくさ、
 をの目うらみ、紫うらみ、おの、
 時、あ、くさくさ、くさくさ、
 ころ、あ、くさくさ、くさくさ、
 め、あ、くさくさ、くさくさ、
 幸、くさくさ、くさくさ、
 えて、くさくさ、くさくさ、
 高、くさくさ、くさくさ、
 君、くさくさ、くさくさ、
 所、くさくさ、くさくさ、

軒 殿 威 河 幸 卿 聖 高 君 所

何うやの秋のよるす
方入の浦中をの風かん
おきる。里の ねの一本
あけの鶴のこのひる
ううあゝ。片山の池
あちのうゝえてやゆらん
あゝゝゝのまきさきほ
江の水もゆきかき
あゝのむら。河の青月
青いゆゝのしる。柳うけ

順 聖 殿 馬 孝 聖 軒 正 殿

まゆめ。少ねのひる
煙。まゆめ。さる。しる
おき。さる。しる。しる
あゝ。まゆめ。さる。しる
あゝ。い。い。仲のね
あゝ。あゝ。は。は。は
あゝ。あゝ。人。の。あゝ
あゝ。あゝ。あゝ。あゝ
あゝ。あゝ。あゝ。あゝ
あゝ。あゝ。あゝ。あゝ

順 聖 殿 馬 孝 聖 軒 正 殿

是よりいふか
 初に世にても人にも
 文のはる世のなる
 軒
 角

四

榮は

天

良跡

子不語怪力亂神

山

生

月夜のひさしに人ひき
 一ひき 跡もなきの中へ
 夢よふにふさふさのうら
 起すのうらふさふさのう
 海にさむらひのうらふさ
 ねもふさふさのうらふさ
 舟人の舟のうらふさふさ
 うらふさふさのうらふさ
 ねもふさふさのうらふさ
 うらふさふさのうらふさ

生 哉 天 軒 聖 軒 孝 天 國 軒 天 軒 天 軒

月夜のひさしに人ひき
 ねもふさふさのうらふさ
 ねもふさふさのうらふさ
 ねもふさふさのうらふさ
 ねもふさふさのうらふさ
 ねもふさふさのうらふさ
 ねもふさふさのうらふさ
 ねもふさふさのうらふさ
 ねもふさふさのうらふさ
 ねもふさふさのうらふさ

生 哉 天 軒 聖 軒 孝 天 國 軒 天 軒 天 軒

凡つる軒はのあゝのゑをて 砌
秋のつきを神のそとる 順

第3

何田

専断

星の石とてぬいそとら 秋の月

秋のやゝを、あゝの白あ 正言
旅のまゝとてこのまゝとく 字砌
又里のゆ。未の山なる 秋
入海のゆをゆへに 日
テ、このゆをゆへに 主
芦のはのゆをゆへに 威家
タリとくをゆへに 良
源のやゝをゆへに 生
草のゆのまゝのまゝ ほ
夜の雨おのまゝとて 又

うゝ風をいひつゝまのて
んゝ下ふのいふれ
うゝいふいふのいふれ
はゝいふいふのいふれ
月ゝいふいふのいふれ
博覧のいふいふのいふれ
おゝいふいふのいふれ
行ゝいふいふのいふれ
おゝいふいふのいふれ
るゝいふいふのいふれ

五
五
五
五
五
五
五
五
五
五

うゝ風をいひつゝまのて
んゝ下ふのいふれ
うゝいふいふのいふれ
はゝいふいふのいふれ
月ゝいふいふのいふれ
博覧のいふいふのいふれ
おゝいふいふのいふれ
行ゝいふいふのいふれ
おゝいふいふのいふれ
るゝいふいふのいふれ

五
五
五
五
五
五
五
五
五
五

亦り事のあゝいゝもん
二本のさゝもゝゝゝゝ
北窓の梅の枝とよき
凡月の桂の枝とよき
お日ハちやうとく色
夕立のさゝもゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝ
さゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝゝゝゝゝゝゝゝ
軍人のさゝもゝゝゝ

いゝゝゝゝゝゝゝゝ
はゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝ
入のゝゝゝゝゝ
凡のゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
おゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝ

まづつゝあはれなる人 感家
時分 けしき人のまゝに 日景
旅の空袖はなれぬ 夜半に
ふのそよよとすのじき 水等
木のやうに 風もきこえん 正位
くじや ほとけのこころはよ 玉清
引取なほ 涙や 喉をき 軒
けしきのあはれも けしきの 月満丸
秋の夜は けしきの けしきの 原 幸
あはれ けしきの けしきの けしきの 聖

別れ けしきの けしきの けしきの 景
人 けしきの けしきの けしきの 王
まづ けしきの けしきの けしきの 水
けしきの けしきの けしきの 軒
村 けしきの けしきの けしきの 寺
袖 けしきの けしきの けしきの 堂
冬 けしきの けしきの けしきの 名
ふの けしきの けしきの けしきの 威
頃 けしきの けしきの けしきの 軒
けしきの けしきの けしきの けしきの 水

松風の吹くは秋の月
露のたまるは雨のち
うき世のうつろひの音
同人のあはれみの音
あゝ秋の風はふりよ
み山はのちとて
いかに秋のつらさ
いかに秋のつらさ
いかに秋のつらさ

まのふりよは秋の月
あゝ秋の風の夕風
み山はのちとて
いかに秋のつらさ
いかに秋のつらさ
いかに秋のつらさ
いかに秋のつらさ
いかに秋のつらさ
いかに秋のつらさ
いかに秋のつらさ

曉の如くも花月いふ
使長にぬえいふもふ
多にれちやの雨しめ入る
小夏まのや軒の如く
ささゆのなみのささゆに
床のいふ池の水さ
舟人のいふ川の如く
何いふの橋のいふ
世中のいふ何なる
いふいふいふいふ

ささゆのいふいふ
ささゆのいふいふ
ささゆのいふいふ
ささゆのいふいふ
ささゆのいふいふ
ささゆのいふいふ
ささゆのいふいふ
ささゆのいふいふ
ささゆのいふいふ
ささゆのいふいふ

音

水章の如く秋月清

春も玉らる池の紫波を
 吟さすほろの那うそ
 山さつるおん凡そ
 雲のふれらるる峰の松
 花のほろそ梅うさる
 花さる人さる袖の
 玉清

のしや旅の衣まきの日
 走つたにまゝの馬やねらん
 くらねけあれ 君さなの日
 世もまゝさるゝと筑波山
 しやんつとやねひ初ん
 神もまゝれゝまゝの古
 うるのうと本林のまゝ
 鳴るひくは田のまゝ
 秋風うもさくひる
 まつとまゝのまゝ一雨

夕日のよきとて 稲葉 軒

やうやうのあふれに 五

そしつゝ 列島の江 五

あふれ月のはらけ 國

うさぎのうさぎ 川

うさぎのうさぎ 軒

あふれとて 民

形見のあふれ 五

秋の雁は 鶴満丸

夜をくぐり 寺

あふれとて 生

入つて月のうら 哉

あふれとて 妻

うさぎのうさぎ 生

うさぎのうさぎ 國

あふれとて 智

あふれとて 軒

あふれとて 川

あふれとて 生

あふれとて 五

かゝるいさゝの油のさう
衣らん人かゝるらん
まにこひま **山**のゆき
す放つらんのをさうのく
やのけらんらんらん
むら波はらんらんらん
青海はらんらんらん
玉鐸のらんらんらん
むのらんらん言のらんらん
えを知ららんらんらん

らんらんらん **山**のゆき
けらんらんらんらん
まらんらんらんらん
浪栗らんらんらんらん
夕の月らんらんらん
雨らんらんらんらん
まらんらんらんらん
らんらんらんらんらん
らんらんらんらんらん

都より陸奥へ行く日すく
山とや雲ん白河の関
旅とやわがやれとあや
友とや恒のくさむすの
まやにまゐうへ成の人
屋よりひきこゝ一時の
あやうきあふくれとあひ
うへよりおと入ての
山及の海もろの雨降く
修京のあゝおとるあり

柳花あめあめ。乃のし
るはふとくはく。極らん
武花の枝もさる春の香
き

宮。又まじつるはるはて
山けさひ。色るのみさ
照るてそさ組の影も
草葉つて宮つらう
根さめめさるさるらん
うさくはま。さるはさ
る

福。さるさる。さるのさ
さひぬさめめ。さる
暁。さるさる。さる
さる。さる。さる。さる
雨さる。さる。さる。さる
さる。さる。さる。さる
夕。さる。さる。さる。さる
さる。さる。さる。さる
尾。さる。さる。さる。さる
さる。さる。さる。さる
森。の。さる。さる

くさくさのふきのめし
さくさく風のふき入
侍らふめをやうらん
まじやうふれ果てや
佐やうの草とれり
まじのふきの蛙あま
五月のふきの水いん
ふきのふきのふきの
神をふきのふきの
ふきのふきのふきの

畠 正 軒 聖 孝 良 生 五 畠 國

第
七

朝何

生阿

光をて天満月
初めふねふふふ
あまふふふふのふて

良珍
正信

小みくろ 磯の山平 日哉
 入江の里のじいの龍を 何
 群の。そこのはさるゝく 何
 うに居るさ。く。多の体 主
 何れ何く 凡のまじく 年
 何れややの海城の人 聖
 ううあこ。人のまの紫 正
 何れうう。く。く。く。 生
 何れうう。く。く。く。 良
 秋の空 涙と雨。く。く。 國

是も紫のそ ひうふく 推 軒
 山。く。治の川 何 博 何
 下。く。く。く。く。く。 國
 何人の葉も 何れく。く。 生
 ち。く。く。く。く。く。 成
 ち。く。く。く。く。く。 何
 ち。く。く。く。く。く。 正
 ち。く。く。く。く。く。 順
 公の恨 何。く。く。く。 主
 迷ひの 何。く。く。く。 生

けりやうとみささの山里 軒
 冬はれいざと焼つる風亭
 流るる枝の松糸 國
 流るる由り月のうづ川 晨
 けりやうとみささの山里 正
 思ひするもつゝの松糸 辰
 ありのふしや 蓬との島 盛
 雪つるに松糸の松糸 辰
 雪の松糸の松糸 辰
 風とく松糸の松糸 辰

かのの松糸の松糸 生
 雪の松糸の松糸 正
 雪の松糸の松糸 辰
 草花の松糸の松糸 辰
 友の松糸の松糸 辰
 木の松糸の松糸 辰
 雪の松糸の松糸 辰
 雪の松糸の松糸 辰
 雪の松糸の松糸 辰
 雪の松糸の松糸 辰

凡時くの何の生の枝 軒
をうつぬくも 難波のまき山 哉
はけねのまきと小麻のまき 聖
ろくろく かのまきとまき 國
むく のまきとまき 生
泪 佛のまきとまき 砌
まきと まきとまき 玉
又のまきとまきとまき 軒
まきとまきとまきとまき 聖
おつとまきとまきとまき 孝

清水のまきとまきとまき 浦のまきとまき 哉
胸のまきとまきとまき 果のまきとまき 砌
まきとまきとまきとまき 良
あつとまきとまきとまき 最
まきとまきとまきとまき 満
あつとまきとまきとまき 軒
まきとまきとまきとまき 正
まきとまきとまきとまき 生
池のまきとまきとまき 砌

こゝろをむくふの山に
桂多きもの山に下りて
この詞もかゝるやせき
べいの人を勅とや信さん
んつらひとものさへり
玉れとらふも中なるや
そとさかへし勢ひさん
まはるゝ秋なりとさへり
しきふくはる入の都
橋ありせきのほろとけり
生 畧 智 軒 物 孝 忠 生 畧

氷の白くけりさきつら
山端のちとさきや時さん
かもしるけりしとせ
まのふくはる勢ひのやせ
おとらふ人や海ありさん
冬なりとるけりさん村
一ののちのけりさん
右の左のちとさきや
けりとるけりさん水の末
朝より見ゆるけりさん
生 畧 智 軒 物 孝 忠 生 畧

うすいひるち山まの空ま
年秋の月ふ秋やあらん
りらぬ糸をいあり果まう
只福出しき旅の雨のれ
入あきしりあくもり
くくしはるはる人満る
那うう山ましきまき
初雪の雪まきまき
うけまの夕まきまき
月まきまのまきまき
ま

うき世のうきまき
廿年まきまき
うきまきまき
春まきまき
うきまきまき
うきまきまき
うきまきまき
ま

十八

何鳥

五清

名もあつてじつはらん月の顔
や即ちさうとどの向うらあ 玄幸
高拂ふほねのそとと起るく國家
しほとわく月と神つくあは
ふ海さ入りの水のをさうと生河
川洲のほのさのわははる

君をよきとてあはれまじく嘆くらん
 良珍
 おもふやうのそとへ行くこと
 日晟
 まさしくおとし井の月の光に
 源寧
 旅や空をとおし海をめぐらん
 聖河
 思つるころの世のなりけり
 如
 世とのあはれみあるは
 威
 にもあらざる惟のち葉うりて
 良
 らねむるや年ひろふん
 哉
 るやむむはるのまゝの及
 生
 こらうこそともなふも短く
 孝

裾さく衣たぬ丸袖く
蓬のうゝ花るる生
仙人さくら木の事らん
海土あやう川
ここのあふく月のと斗
秋きつるゆせのふ
夢のうらるる飛雪
里さくくくくく
西の中のと所あるん
年のやはや一人やよ

裾さく衣たぬ丸袖く
蓬のうゝ花るる生
仙人さくら木の事らん
海土あやう川
ここのあふく月のと斗
秋きつるゆせのふ
夢のうらるる飛雪
里さくくくくく
西の中のと所あるん
年のやはや一人やよ

車工はさるよ
公のく人といひ
このくはさるの
九そのかともう
明この月といひ
時このくはさる
旅立一舟のさる
わづらひのさる
まゝのさる
のさるのや
正生

夕侍と侍机の
とこのくはさる
公のさるの
つる玉のさる
月このくはさる
るこのくはさる
高このくはさる
妙れこのくはさる
胡弓のさる
只このくはさる

三つをねじりあさうあは
 心のぬうの思ひ子
 海さの人のきれう世
 国くくくく
 却ゆう
 辰 正 軒 病

第九

何水

聖阿

山のくさし河をぬかふに
 るるはつとそこの一筋
 なるべしひとりのみの縄
 いづれもむすまゝのまじり
 色もよむひたのびさけて
 こころの袖は空をうくる
 冷々との夕月さしも清く

代々の種
 盛家
 玄清
 玄幸
 宗如
 日晟
 自萬
 生阿
 良祚

人みろく山崎のゆき
薪るあふくさき
風ふくさくさき
世のふくさくさき
ふくさくさくさき
つふくさくさき
ゆふくさくさき
ふくさくさくさき
月ふくさくさき
谷のふくさくさき

一くさくさき
秋ふくさくさき
入ふくさくさき
船ふくさくさき
後世のふくさくさき
やふくさくさき
山ふくさくさき
はふくさくさき
積ふくさくさき

るにややうくせん
五山とてうゝる秋の蟹
庭にふとて 輕き秋の蟹
月夜に押あふ床のちのち
いづれにふとて 秋の蟹
傳ふもふとて 秋の蟹
虎やうにふとて 秋の蟹
る

鬼神 ころもふとて 生

才十

何草

堆草

秋に名残るふ月のかん
ふれみふの梅うゝ 日

長月と命ふけり内

天

いりてんてんてんてん

天

郭と初めのとき

天

山白妙と句なり

天

市晒すはの川段

天

水とくまの島

天

あつて禁入や

天

いりてんてんてん

天

色と花のとき

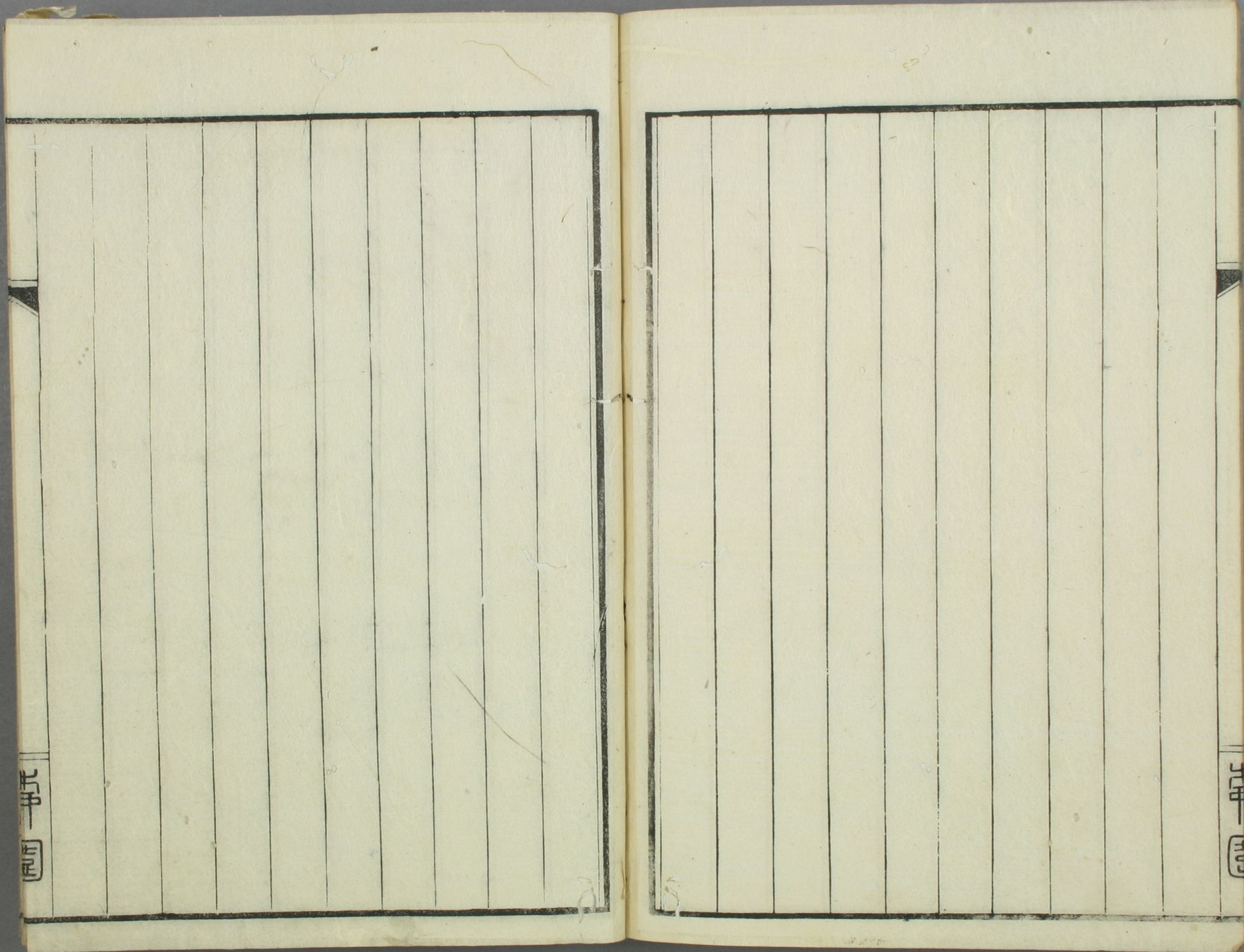
天

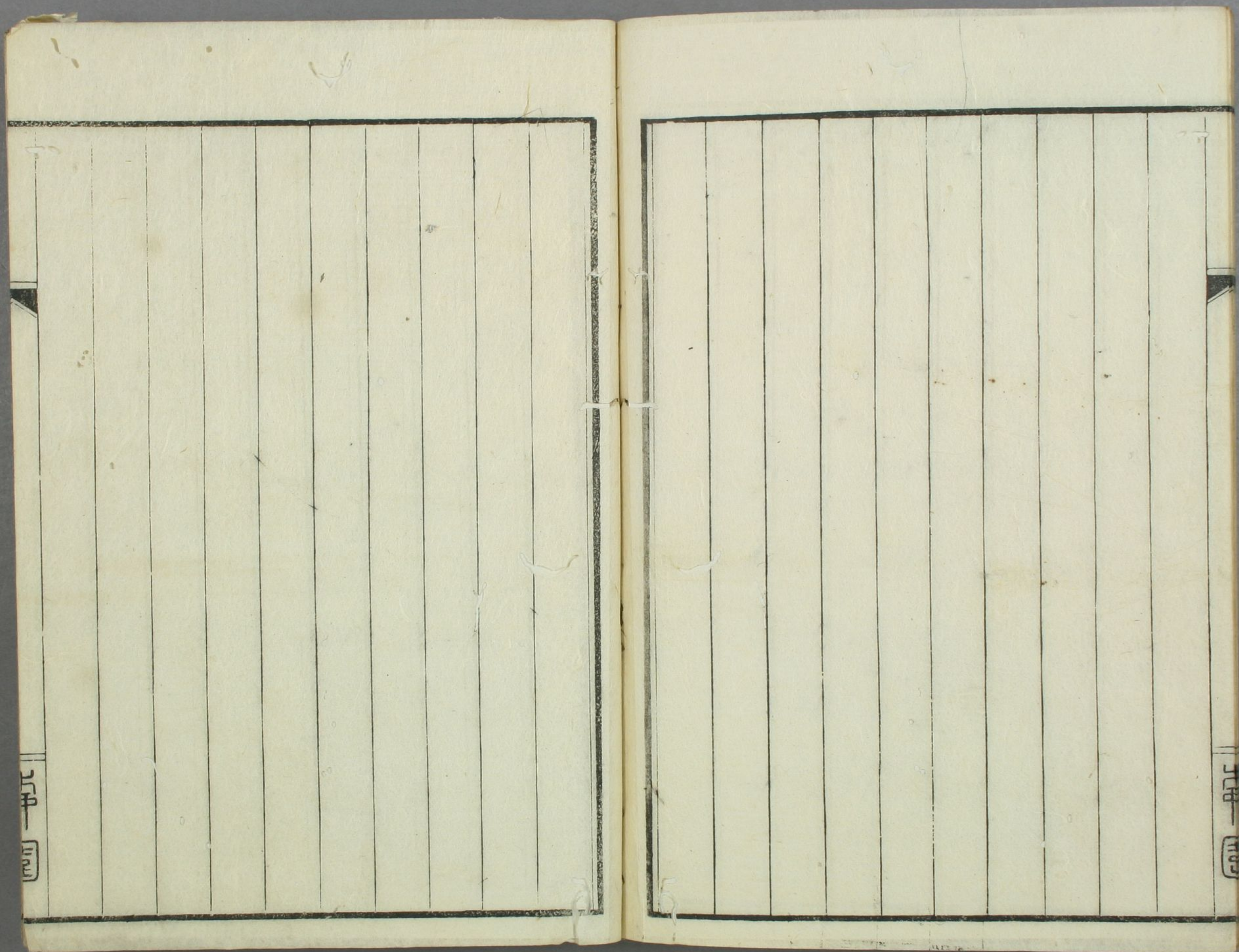
すむしり

天

後とてふのとき

いりてんてんてん





石十五夜十句と并に添はる
利の朝にあそぶ中や定まる
知己は其まうらうらうと
やうらうらうらうらうら
春の末四十年と歌ふ事
送順なりけりやと
はるかに補ふことあり

寛政五年長月晦

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and small tears or creases, particularly along the left edge where the binding is visible. The right edge shows a dark binding material. There is no text or other markings on the page.

